

がん化学療法レジメン登録票

新規レジメン登録の際にはプロトコルの提出が必須です
プロトコルがない場合は参考文献を提出してください

レジメン名	BEP
診療科名	産婦人科
診療科責任者名	大塚 伊佐夫
適応がん種	胚細胞腫瘍(卵巣)
保険適応外の使用	有 無

がん治療ワーキンググループ使用欄	
登録番号	Ov-26
登録日・更新日	2011年4月25日
削除日	
出典	J Clin Oncol 1994;12:701
入力者	安室 修

投与順に記入(抗がん剤のみ)

	薬剤名	規格	投与量算出式	ルート	投与時間	施行日
No.1	エトポシド	100mg	100mg/m ²	IV DIV IVHポート 側管 その他()	2時間	Day1~5
	生理食塩液	500mL				
No.2	シスプラチン	10,50mg	20mg/m ²	IV DIV IVHポート 側管 その他()	1時間	Day1~5
	生理食塩液	250mL				
No.3	プレオ	5mg	20mg/m ² or 30mg/body	IV DIV IVHポート 側管 その他()	15分	Day2,9,16 or (Day1,8,15)
	生理食塩液	50mL				

1コースの期間	21日
投与間隔の短縮規定	短縮可能(日) ・ 短縮不可能
計算後の投与量上限値	110%
計算後の投与量下限値	50%

減量・中止基準	【中止・延期基準】 WBC<2,000/mm ³ ANC<1,000/mm ³ Hb<8.0g/dL Plt<5万/mm ³ T-Bil>2.0mg/dL AST>100IU/L ALT>100IU/L BUN>40mg/dL SCr>1.5/dL 上記以外でGrade3(CTCAEv3.0)以上の有害事象発現時
前投薬	グラニセトロン3mg+デキサメタゾンNa
その他の注意事項	プレオの総投与量は300mg/bodyを超えない 肺毒性を考慮し、プレオの投与量は20mg/m ² もしくは30mg/bodyの少ない方を選択する。 3~4コース実施 プレオ投与後の患者は高濃度酸素の投与にて重症間質性肺炎のリスクがあるため使用を避ける。 プレオとG-CSF製剤の投与は可能な限り同日投与を避ける。

記入者	安室 修
確認者	大塚 伊佐夫